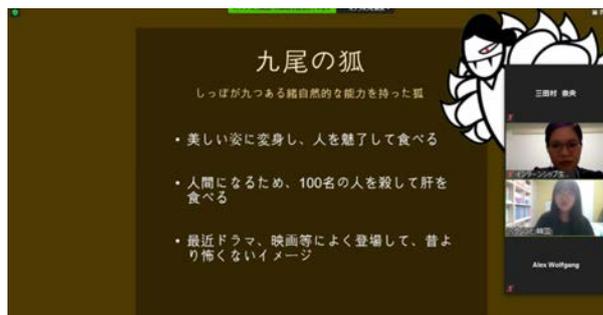


2020 年度実施事業に係る実施状況等調査報告

調査団体	特定非営利活動法人留学協会
事業名	外国人留学生と日本人学生との国際交流・スポーツ交流・就職支援
調査日及び場所	1. 令和2年9月26日(土) (オンライン交流会) オンライン ZOOM 2. 令和2年10月20日(火) (訪問調査) 於 特定非営利活動法人留学協会
<p>報告事項</p> <p>1. オンライン交流会について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ イベント名：オンライン異文化交流会 暑気払い 怪談会</li> <li>・ 参加対象：日本人高校生、日本人大学生、外国人</li> <li>・ 参加者数：約 40 名</li> </ul> <p>オンライン異文化交流会は、外国人の留学生及び社会人が中心となって企画・実施された。司会進行は主にベトナム人インターシップ生が行い、怪談の合間に一言感想を述べる等、話が途切れないよう、場の雰囲気作りに努めていた。</p> <p>怪談を聞く前にはどの国の怪談に興味があるかアンケートを取り、全ての怪談を聞き終わった後にも、どの国の怪談が面白かったかアンケートが取られた。これには怪談を聞く側（参加者）の関心を高める効果があるとともに、怪談を話す側（外国人の留学生及び社会人）にはモチベーションを高める効果があったと感じた。</p> <p>怪談は全部で5種類（モンゴル、韓国、香港、ベトナム、中国）あり、それぞれの国の学生又は社会人によって披露された。その際、その国の住まいや習慣、食べ物等の文化についての紹介が織り込まれた。各国の文化の紹介の後、その国の文化と日本や他の国との相似点について語られる場面もあり、異文化理解の要素が含まれていた。</p> <p>怪談を話し終わった後は、その怪談の結末について参加者で考え、それについて各自が発表する場面があり、発表者である外国人の留学生及び社会人は、参加者が会話に参加できるように促すことで、交流に努めていた。</p> <p>今回のオンライン交流会のように、外国人の留学生及び社会人たちに企画を任せることは、今後の留学生交流の推進にもつながるのではないかと考える。</p> <p>交流会の最後には、対話やチャットを通して、参加者が外国人の留学生及び社会人に質問する時間が設けられた。「日本に来て楽しかったこと・困ったことは何か」「自国で自慢できることは何か」等、異文化理解に関わる質問が多く、参加者の異文化理解への興味がうかがえた。</p>	



韓国人留学生のお化けについてのプレゼンテーション



中国人留学生の怪談

## 2. 実施団体への訪問調査について

予算の執行状況や会計処理、事業の実施状況について確認した。また、新型コロナウイルス感染症の感染動向を鑑みながらイベントの実施方法が検討されていたことがわかった。

その他、当該助成事業への意見・要望等を伺い、オンラインによる交流会のメリット・デメリットについて意見交換を行った。